



日本十進分類法 (NDC) 概要とデータ化

日本図書館協会分類委員会
藤倉 恵一

日本十進分類法の概要

NDCの経緯と十進分類法の基本

図書館、図書館情報学

010

- 集中目録作業，共同目録作業，書誌ユーティリティ
 * 個々の目録は，025/029に収める
- 014.38 特殊資料の目録法
 .39 目録用品
 .4 主題索引法：分類法，件名標目法，主題分析
 * 主題目録法は，ここに収める
 * 別法：主題分析007.52
 .45 一般分類表
 * 国際十進分類法 [UDC]，国立国会図書館分類表 [NDLC]，デュルー法 [DDC]，日本十進分類法 [NDC] などは，ここに収める
 .46 専門分類表
 .47 分類規程，分類作業
 .48 特殊資料の分類法
 .49 件名標目，シソーラス，件名作業
 .495 一般件名標目表
 * 基本件名標目表 [BSH]，国立国会図書館件名標目表 [NDLSH]，米国議会図書館件名標目表 [LCSH] などは，ここに収める



日本十進分類法 (NDC: Nippon Decimal Classification)

- 1929年 間宮商店の森清が発表
- 1942年 増補訂正第5版まで改訂を重ねる
- 1949年 縮刷第8版まで重版（増刷）が続く
(1948年, 日本図書館協会分類委員会が継承)
- 1950年 新訂6版（2分冊）が刊行（翌年合冊し新訂6-A版）
- 1961年 新訂7版
- 1978年 新訂8版
- 1995年 新訂9版（もり・きよし没後最初の改訂）

- 2014年 新訂10版刊行

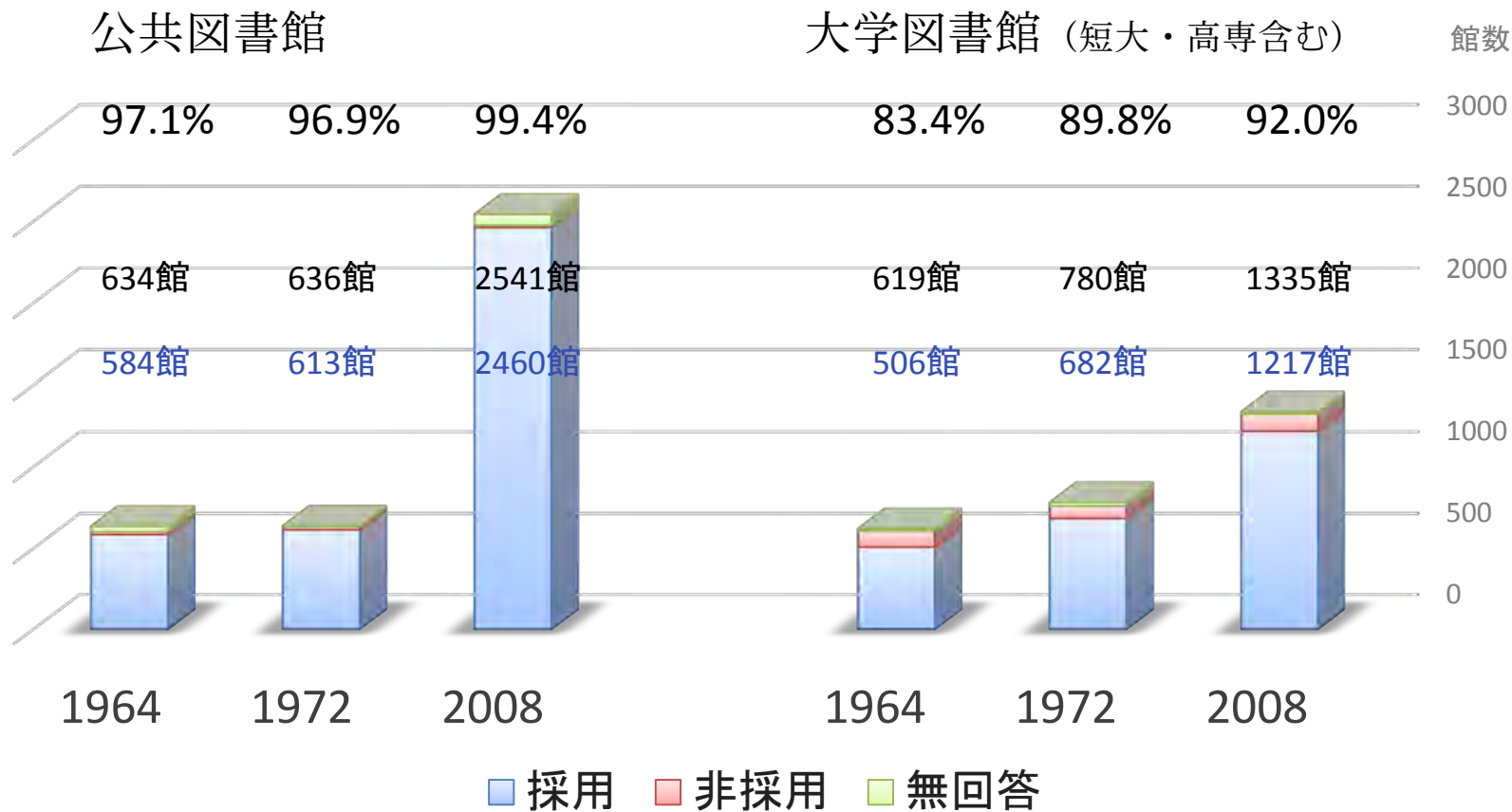
日本図書館協会分類委員会

- 2015年4月～ 中井万知子委員長以下8名＋事務局1名

大学教員	2名（委員長含む）
国立国会図書館	2名
MARC会社	1名
大学図書館	1名
公共図書館	1名
有識者（元MARC会社）	1名

－ 月に1回の定例会議とメーリングリストでの協議・連絡

NDCの普及率



もり・きよし「NDCのつかい方」(1966), もり・きよし「NDC入門」(1982),
大曲俊雄「わが国における図書分類表の使用状況」(2010)をもとに算出

十進分類法の基本構造

- 主題を10に区分する
 - 下位の9区分+その他(0;=総記(General Works))

類(Class)	綱(Subdivision)	目(Section)	細目(Subsection)	
0 総記	40 自然科学総記	450 地球科学総記		
1 哲学	41 数学	451 気象学	.1 理論気象学	.61 雲
2 歴史	42 物理学	452 海洋学	.2 気象観測	.62 霧
3 社会科学	43 化学	453 地震学	.3 大気現象	.63 露・霜
4 自然科学	44 天文学	454 地形学	.4 風	.64 雨
5 技術	45 地球科学	455 一般地質学	.5 大気の擾乱	.65 雹
6 産業	46 生物化学	456 地史学	.6 凝結現象	.66 雪
7 芸術	47 植物学	457 古生物学	.7 大気中の光・電気・音響現象	.67 霧氷
8 語学	48 動物学	458 岩石学	.8 気候学	.68 氷
9 文学	49 医学	459 鉱物学	.9 気象図誌	.69 降水量

桁が増えるごと(区分が漸進するごとに)細かく分類される

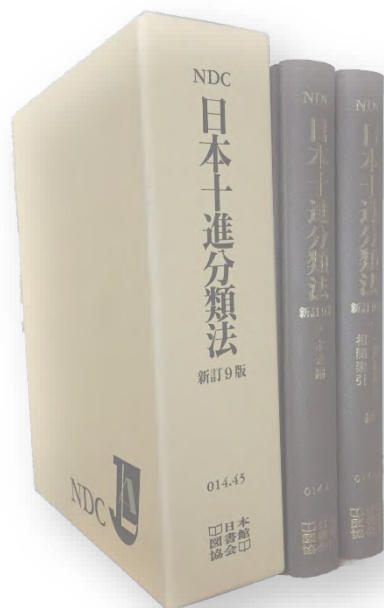
NDCの構成（新訂9版を例に※）

- 本表編

- 解説
- 第1次区分表(類目表)
- 第2次区分表(綱目表)
- 第3次区分表(要目表)
- 細目表

(細目表内に)

- 固有補助表(7種)



- 一般補助表・相関索引編

- 一般補助表

- I 形式区分
- I-a 地理区分
- II 海洋区分
- III 言語区分
- IV 言語共通区分
- V 文学共通区分

- 相関索引

※ 8版・10版とは名称や扱いが異なる箇所がある

補助表（助記表）

- 各主題に共通に用いることができる要素（理論, 歴史, 出版形式, 研究・指導法など）や地理的区分, 言語などを別表に用意し, 分類記号に付加することができる（分類表をその分省略できる）
 - 一般補助表 NDC全体もしくは複数の類で使用できる
 - 固有補助表 特定の類の一部に対してのみ使用できる

例: 図書館 010

理論	-01	図書館論	010.1
歴史	-02	図書館史	010.2
日本	-1	日本図書館史	010.21
アメリカ	-53	米図書館史	010.253

十進記号法の効果・利点

- アラビア数字で表現するため,覚えやすい
- 書架上での排列の順序表示に適している
(数字の大小は理解されやすい)
- 区分の漸進がわかりやすい
(階層構造を視認しやすい;桁が多いほど下位の分類)

4(自然科学)

45(地球科学)

451(気象学)

451.6(凝結現象)

451.64(雨)

451.61(雲)

451.66(雪)

} 等位

順序としては451.6の後に
.61, .64, .66と並べやすい

十進記号法の限界・欠点(1)

- 区分枝の数は「9+その他(0)」しか用意できない
 - 区分枝が少数の場合,記号配当にムダが生じる
 - 区分枝が多数の場合,階層構造が純粹なものでなくなる
 - 「その他」を拡大するか,
 - 下位の桁に強引に割り当て,字上げ／字下げを用いて階層構造を記号ではなく印刷上のレイアウトによって視認させる
(これは最初期のDDCでも用いられていた手法)

字上げ（不均衡項目）／字下げ（縮約項目）

- 記号の桁数が必ずしも概念の上位／下位と一致するとは限らない

012 図書館建築. 図書館設備 Library buildings

*館種の別なく，ここに収める；ただし，一館の建築誌は，016／018に収める

. 1 建築計画：基礎調査，位置，敷地

. 2 建築材料および構造

. 28 改修・改築工事

. 29 維持管理. 保護. 防火. 防水

. 3 建築設計・製図

. 4 書庫. 書架

. 5 利用者用諸室：閲覧室，児童室，目録室

. 6 講堂. 集会室. 展示室. 視聴覚室

【不均衡項目】

記号上では012.2の下位になるが
012.2の等位になっている

【縮約項目】

記号上は012.3と等位だが
012.3の下位概念

※ 9版紙面では字上げ・字下げは半角単位で示されているが，このスライドでは視認性のために10版紙面と同様に全角で表示している

十進記号法の限界・欠点(2)

- 複数主題,複合主題を表現しにくい
 - 主題が異なる領域や観点あるいはファセットの場合,これらを一次元に記号表現することは容易でない
 - 記号化しても,複雑になって理解されにくい
- これらは,現在のNDCが抱える問題点とも重なる
 - 第1版から現在まで字上げ／字下げによる表示を各所で使用
 - 複数主題は件名標目や目録法で補完
 - 書誌上では分類を重出させて,複数主題に対しても検索を可能にする

階層構造の補完

- 「字上げ／字下げ」だけでなく、いくつかの手段で十進記号法の欠点を解消(緩和)している
 - 小項目名 その分類項目名の下位区分
 - 関連分類項目名 直接的下位区分とはいえないが関連性のある名辞

493 内 科 学 Internal medicine

- . 1 全身病. 一般的疾患
- . 11 特定難病 : ベーチェット病, スモン病 【小項目名】
- . 12 代謝異常. 栄養障害・失調
 低血糖症. 低蛋白血症 【関連分類項目名】

- 中間見出し 下位に属する分類記号の範囲で階層関係を明示

527 住宅建築 Residential buildings

- . 1 設計. 敷地. 間取
- <. 2 / . 6 住宅の各部分> 【中間見出し】
- . 2 玄関. 広間. 廊下. 階段. 地下室
- :
- . 6 浴室. 化粧室. 手洗所

NDCの抱える問題

- 構造的・理論的な問題

- 第1版以降,大規模な再配置などはほとんど行われていない
 - 特に新訂8版以降は細分化が中心で,窮屈な箇所がいくつもある
 - 長年にわたり指摘された理論上の問題点は解決されていない

- 維持管理体制の問題

- 人的資源の枯渇
 - 多種多様な図書の分類経験と,分類法の理論と,データの利活用すべてをわかっている人は……
- 紙(および生データ)での編集
(基幹となるファイルがデータベース化されていない)

→ 要求されるクオリティ,刊行までの時間を達成するには障壁が多い

データ化されたNDC

Linked Dataへの前段階

図書館, 図書館情報学

010

- 集中目録作業, 共同目録作業, 書誌ユーティリティ
 * 個々の目録は, 025/029に収める
- 014.38 特殊資料の目録法
 - .39 目録用品
 - .4 主題索引法: 分類法, 件名標目法, 主題分析
 - * 主題目録法は, ここに収める
 - * 別法: 主題分析007.52
 - .45 一般分類表
 - * 国際十進分類法 [UDC], 国立国会図書館分類表 [NDLC], デュー
 法 [DDC], 日本十進分類法 [NDC] などは, ここに収める
 - .46 専門分類表
 - .47 分類規程, 分類作業
 - .48 特殊資料の分類法
 - .49 件名標目, シソーラス, 件名作業
 - .495 一般件名標目表
 - * 基本件名標目表 [BSH], 国立国会図書館件名標目表 [NDLSH], 米国議会図
 書館件名標目表 [LCSH] などは, ここに収める



MRDF (Machine Readable Data File)

- 9版の冊子(細目表+補助表, 相関索引)および8版をデータファイル化
 - 9版分類表 10,173件 相関索引29,526件
 - 8版分類表 8,612件 相関索引30,659件

(件数はいずれも発表時)
- 新訂10版のMRDFは検討中
 - 冊子相関索引に掲載しなかった索引語を収録予定
(ヨミの異なるものや字体の違いなども含め)
 - 誤植対応がまだ継続中
 - 単なる表・索引のデータファイルだけではなく, 検索システムや図書館システムとの連動など, 現代にあわせた提供方法を模索

MRDFの中身（細目表・補助表）

- 管理番号・記号の種類・分類記号等を示し,冊子に準じた各種情報が続く

00001100 A 007	0010 情報科学
00001200 A 007	0020 I n f o r m a t i o n s c i e n c e
00001300 A 007 を収める	0040 ここには, 情報科学<一般>およびソフトウェア
00001400 A 007 る	0041 電子計算機などのハードウェアは, 548に収め
00001500 A 007 1) は548. 1	0042 別法: 548. 9; ただし, 情報理論(007.
00001600 A 007	0060 →: 010
00001700 A 007.02	0360 →007. 2
00001800 A 007.1	0010 情報理論
00001900 A 007.1 (数字・映像)とその意味論	0030 コミュニケーションとそのメディア, 記号, 言語
00002000 A 007.1	0040 別法: 548. 1; 情報源007. 4
00002100 A 007.1	0060 →: 361. 45; 801. 2
00002200 A 007.11	1010 サイバネティックス

(参考) 9版細目表における同一箇所

- 冊子では,同一ページ内での上位の分類記号(ピリオド以前)は省略している

007 情報科学 Information science → : 010

*ここには, 情報科学<一般>およびソフトウェアを収める

*電子計算機などのハードウェアは, 548に収める

*別法 : 548.9 ; ただし, 情報理論 (007.1) は548.1

[. 02→007. 2]

. 1 情報理論 → : 361.45; 801.2

コミュニケーションとそのメディア, 記号, 言語 (数字・映像) とその意味論

*別法 : 548.1 ; 情報源007.4

. 11+ サイバネティックス

MRDFの中身（**相関索引**）

- 索引語と限定語は冊子と同じ表現を用いる
- 排列のためにヨミをもつ
- 地理や言語など一部の項目には符号がつく

00000100X 617. 8	0070あい（作物栽培） アイ(サクモツ サイバ イ)
00000200X 479. 64	0070あい（植物学） アイ(シヨクブ ッガク)
00000300X 577. 99	0070あい（染料） アイ(センリョウ)
00000400X191. 7	0070愛（キリスト教） アイ(キリストキョウ)
00000500X141. 62	0070愛（心理学） アイ(シンリガク)
00000600X181. 6	0070愛（仏教） アイ(ブ ッキョウ)
00000700X158	0070愛（倫理） アイ(リンリ)
00000800X2- 164	0070@相生 アイアイ
00000900X2- 5352	0070@アイオワ州 アイオワシュウ
00001000X645. 9	0070愛玩動物 アイガン トウブツ
00001100X789. 25	0070合気道 アイキドウ

(参考) 9版関連索引における同一箇所

- 冊子体では,同一カラム内の同一索引語を省略している
- 地理区分を表す記号には*を付し,斜体にしている

あい (作物栽培)	617.8
(植物学)	479.64
(染料)	577.99
愛 (倫理)	158
(キリスト教)	191.7
(心理学)	141.62
(仏教)	181.6
相生	*164
アイオワ州	*5352
愛玩動物	645.9
合気道	789.25

MRDFの問題

- MRDFはあくまで細目表・索引をデータ化したもの
 - 要約表(第1次区分表～第3次区分表)をもっていない
 - 補助表を使うことで表現できるような主題には対応していない
 - 「図書館論」010.1は細目表に列挙されているので問題ないが、「図書館史」は細目表にない
 - プログラミングで記号を合成させる(補助する)方法があるかもしれないが、それには主題の専門知識と高度な技術を要する
 - 事前に考え得る補助表記号をすべて用意することは事実上不可能である(たとえば主題一つに対し、あらゆる国と地域を区分した記号を与えると、莫大な件数になる)
- 利活用の具体的な方法について見いだせていない
 - OPACへの投入・案内などの具体例に乏しい
 - 10版改訂作業の下地にはしたが、完全なマスターファイルにはなりえていない

委員会側の経緯

- 2009年秋 NDC10版試案説明会(中間報告)
 - － 電子データ形式のNDCの可能性・試案
たとえばMRDFをEPWINGのような電子書籍形式で検索可能なデータベースとして販売あるいは頒布するなど
- 2013年冬 NDC10版改訂の終盤
 - － 検索補助ツールとしてのNDCの可能性
SKOSやOWL,トピックマップなど構造化されたデータ形式で,検索補助ツール(あるいはソース)として活用できるか
- 2014年冬 国立国会図書館からLinked Data化共同研究打診
 - － MRDF9およびMRDF8を提供
 - － JLA理事会で承認,覚書を締結した



→ **共同研究開始**(2015年4月～)